

2 調査結果の概要

(1) 平成7年度本県平均値と平成6年度全国平均値の比較

ア 体力診断テスト

(ア) 小学校

5年生男子の柔軟性（伏臥上体そらし・立位体前屈）及び全学年の全身持久力（踏み台昇降運動）を除くとほぼ全国平均である。

(イ) 中学校

1年生の男女とも柔軟性（伏臥上体そらし・立位体前屈）を除くと全国平均より上回っている。特に、学年が進むにつれ全国平均との差が上回っている傾向にある。

(ウ) 高等学校

全学年とも女子はほぼ全国平均である。しかし、男子は全学年とも柔軟性（伏臥上体そらし・立位体前屈）及び全身持久力（踏み台昇降運動）を除くとほぼ全国平均である。

イ 運動能力テスト

(ア) 小学校

5・6年生の男女とも跳力（走り幅とび）が全国平均より低下傾向が著しい。また、走力（50m走）、筋持久力（斜懸垂）及び巧ち性（ジグザグドリブル）も全国平均よりやや下回っている。

(イ) 中学校

2・3年生の男女とも全種目が全国平均より上回っている傾向にある。しかし、1年生の男女ともが全種目で全国平均を下回っているのが気になるところである。

(ウ) 高等学校

全学年とも走力（50m走）を除いて全国平均を下回っている。特に、跳力（走り幅とび）及び持久力（持久走）の落ち込みが目立つ。

(2) 過去10年間の体力・運動能力の推移（昭和61年度から平成7年度まで）

ア 体力診断テスト

(ア) 小学校

- ・やや上昇している種目 : 反復横とび（5男女6女）、垂直とび（5. 6男女）、
伏臥上体そらし（6女）、立位体前屈（5. 6女）
- ・横ばいの種目 : 背筋力（5. 6男）、握力（5. 6男女）、踏み台昇降運動（6男）
- ・やや下降している種目 : 背筋力（5. 6女）、伏臥上体そらし（5男女6男）、
反復横とび（6男）、立位体前屈（5. 6男）、
踏み台昇降運動（5男女）
- ・下降している種目 : 踏み台昇降運動（6女）

(イ) 中学校

- ・上昇している種目 : 伏臥上体そらし（1女）
- ・やや上昇している種目 : 反復横とび（1男）、握力（1女）、背筋力（1男女）、
立位体前屈（1. 2女3男女）
- ・横ばいの種目 : 握力（3女）、立位体前屈（1. 2男）
- ・やや下降している種目 : 反復横とび（1女2. 3男女）、垂直とび（1. 3男女）、
握力（1. 3男2男女）、伏臥上体そらし（1男2. 3男女）
- ・下降している種目 : 垂直とび（2男女）、背筋力（2. 3男女）、
踏み台昇降運動（1. 2. 3男女）

(ウ) 高等学校（定時制は除く）

- ・やや上昇している種目 : 背筋力（1女3男）、踏み台昇降運動（3男）
- ・横ばいの種目 : 反復横とび（1. 2. 3男女）、垂直とび（3男）、
握力（1. 2女3男女）
- ・やや下降している種目 : 垂直とび（1. 2男女3女）、背筋力（2. 3女）、握力（1. 2男）、
伏臥上体そらし（2. 3男）、立位体前屈（1. 2. 3男女）
- ・下降している種目 : 背筋力（1. 2男）、伏臥上体そらし（1男女2. 3女）、
踏み台昇降運動（1. 2男女3女）

エ 全体的特徴

a 小学校

あまり大きな変化はみられなかったが、男女とも跳力（走り幅とび）がやや向上傾向にある。しかし、男子の柔軟性（伏臥上体そらし・立位体前屈）と女子の筋力（背筋力）及び全身持久力（踏み台昇降運動）は低下傾向にある。

b 中学校

女子の柔軟性（立位体前屈）がやや向上傾向にある。また、1年生女子は柔軟性（伏臥上体そらし）及び筋力（握力・背筋力）においてもやや向上傾向がみられた。しかし、全体的に瞬発力（垂直とび）及び全身持久力（踏み台昇降運動）が低下傾向にある。

c 高等学校

3年生の男子が筋力（背筋力）及び全身持久力（踏み台昇降運動）にやや向上傾向がみられた。しかし、全体的に柔軟性（伏臥上体そらし・立位体前屈）がやや低下傾向にある。

イ 運動能力テスト

(ア) 小学校

- ・やや上昇している種目 : 50m走(5男), 走り幅とび(6男), 斜懸垂(5男), ジグザグドリブル(5, 6男)
 - ・横ばいの種目 : 50m走(6男女), 斜懸垂(5女6男女), ジグザグドリブル(5, 6女)
 - ・やや下降している種目 : 50m走(5女), 走り幅とび(5男), 連続さか上がり(5, 6男女)
 - ・下降している種目 : 走り幅とび(5, 6女), ソフトボール投げ(5, 6男女)
- (イ) 中学校
- ・やや上昇している種目 : 50m走(1男女3女), ハンドボール投げ(1女), 斜懸垂(3女), 持久走(1男)
 - ・横ばいの種目 : 50m走(2男女3男), 持久走(2, 3男)
 - ・やや下降している種目 : 走り幅とび(1男女), ハンドボール投げ(1男2, 3男女), 懸垂(1男), 斜懸垂(2女)
 - ・下降している種目 : 走り幅とび(2, 3男), 懸垂(2, 3男), 斜懸垂(1女), 持久走(1, 2, 3女)
- (ウ) 高等学校
- ・やや上昇している種目 : 50m走(3男), 斜懸垂(2女), 持久走(2男女)
 - ・横ばいの種目 : 50m走(1, 2男女3女), 懸垂(1, 2男), 持久走(1男女3男)
 - ・やや下降している種目 : 走り幅とび(1, 2, 3女), ハンドボール投げ(1, 2, 3男女), 懸垂(3男), 斜懸垂(3女)
 - ・下降している種目 : 走り幅とび(1, 2, 3男), 懸垂(1女), 持久走(3女)

(エ) 全体的特徴

a 小学校

あまり大きな変化はみられないが、男子の走力(50m走)及び巧ち性(ジグザグドリブル)と女子の筋持久力(斜懸垂)及び巧ち性(ジグザグドリブル)はやや向上傾向にある。しかし、全体的に巧ち性(連続さか上がり)及び投力(ソフトボール投げ)は低下傾向にある。

b 中学校

全学年の男女とも走力(50m走)が緩やかな向上傾向にあるが跳力(走り幅とび)は極めて低下傾向にある。特に、男子の筋持久力(懸垂)と女子の持久力(持久走)の低下傾向が気になるところである。

c 高等学校

2年生の男女とも持久力(持久走)が上昇傾向にある。しかし、全学年の男女とも跳力(走り幅とび)の落ち込みが目立つ。さらに、全学年の男女とも投力(ハンドボール投げ)が年々緩やかな低下傾向が気になるところである。

(3) 運動・スポーツの実施状況別児童生徒の体力・運動能力の比較

運動を毎日している児童生徒と毎日していない児童生徒では、小・中・高等学校の全学年全種目において、運動を毎日している児童生徒のほうが体力・運動能力の結果が良かった。特に良かった種目は、小学校では、背筋力、伏臥上体そらし、踏み台昇降運動、走り幅とび、ソフトボール投げ、斜懸垂である。中学校では、握力、伏臥上体そらし、立位体前屈、走り幅とび、持久走などである。さらに、高等学校では、反復横とび、背筋力、50m走、走り幅とび、懸垂・斜懸垂、持久走などである。

体力・運動能力は、加齢とともに向上している傾向にあるが、女子においては、中学校をピークに下降気味の種目が約半数以上みられる。特に、伏臥上体そらし、50m走、走り幅とび及び持久走においては、中学3年生から高校1年生にかけて、一時的に下降している傾向にある。

(4) 児童生徒のローレル指數から見た現状

ア 男子

学校段階別にみると、太りすぎ、太りきみの児童生徒は、小学校(17.6%)が多く、中学校(10.7%)で減少し、また、高等学校(17.5%)で増加している。やせすぎ、やせきみの児童生徒は、中学校(40.2%)が多く、ついで高等学校(22.7%), 小学校(22.4%)の順になっている。

過去3年間の比較でみると、小学生はわずかながら肥満が増加傾向にある。

イ 女子

学校段階別にみると、太りすぎ、太りきみの児童生徒は、小学校(14.3%), 中学校(17.5%), 高等学校(23.6%)と学年が進むにつれて増加している。やせすぎ、やせきみの児童生徒は、小学校(31.6%), 中学校(22.7%), 高等学校(11.5%)と学年が進むにつれて減少している。

過去3年間の比較でみると、太りすぎ、太りきみの児童生徒は、小学校、中学校、高等学校ともほとんど変化がみられないが、やせすぎ、やせきみの児童生徒は、やや増加傾向にある。